

団体名 医療法人ハートフリーやすらぎ

事業名 児童発達支援・放課後等デイサービス・療養通所介護・町の保健室

事業概要

- 医療的ケア児の利用者を受け入れ、ママやパパが休息できるようにします。
- サービスの提供にあたっては、地域並びに家族との結びつきを重視します。
- 地域住民から気軽に相談できる場所として、まちの保健室を定期開催します。

解決すべき地域の課題

- 医療技術の進歩により人工呼吸器の使用や、痰の吸引が必要な医療的ケア児が増加していますが、住吉区には医療的ケア児の行き場が少ないため、その行き場所と発達段階を踏まえたケアを実践する必要があります。
- 地域のつながりが希薄になってきており、独居高齢者も増えている為、地域住民の交流の場・安心の場を作る必要があります。

活動状況

- 児童発達支援・放課後等デイサービス（月曜日～土曜日（祝日除く））では、人工呼吸器を装着している障がい児その他の日常生活を営むために医療を要する状態にある障がい児や重症心身障がい児等が保育所や幼稚園に通うように地域で療育や支援を受けて安心して暮らしていけるよう、日常生活の自立支援や機能訓練を行います。
- 療養通所介護（月曜日～金曜日（祝日除く））では、がん末期患者、認知症、脳血管疾患後遺症、難病など常に看護師による観察が必要な方を対象に、医療的処置が必要な中・重度の要介護者が住み慣れた地域で安心して生活できるように看護と介護を一体化した医療的ケアを提供し、安心して過ごせる場所を提供します。
- まちの保健室（必要に応じて開催）では、「医師には遠慮して聞きづらい」ことや「この症状が病院に係るほど悪いのか自分では判断できない」など、“どこで、どう相談していいのかわからない”といった住民の想いを受け止め、地域の住民が気軽に相談ができる、在宅医療介護や認知症の相談窓口として活動します。
- また、住宅周辺の草むしりや地域の盆踊り・年末の餅つき大会などにも参加して地域住民との交流を深めています。



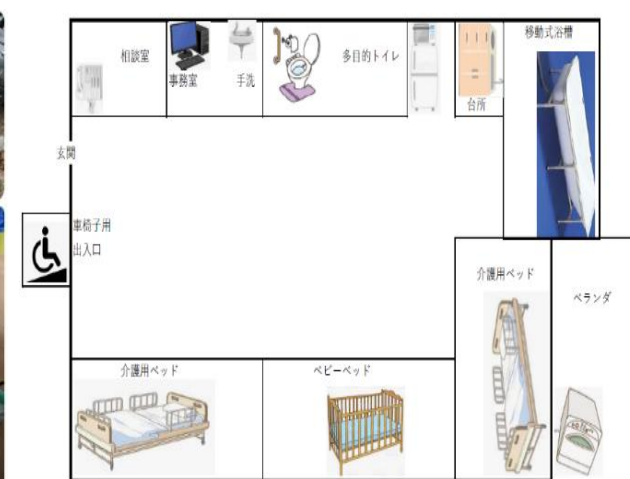
【活動の様子】

活動に参加している利用者の状況（市営住宅の住民および近隣住民）

- 開所当時（令和元年）の利用者は、70代以上の高齢者8割、未就学児童2割だったが、現在（令和6年）では高齢者2割、児童8割となり、児童の利用者割合が増えました。

住戸の活用状況

- 間取りは、壁や柱を無くしてワンフロアとしています。
- 全面バリアフリー工事を行い、段差を解消して転倒の無いように安全対策を実施。
- 部屋の中心部には床暖房を設置し、利用者が快適に過ごせるように配慮をします。
- 地域の給電ボランティアの方と一緒に、災害における停電でも呼吸器や吸引器が動かせるように自動車から電源を供給する訓練を定期的に行っています。



「市営住宅のコミュニティ活性化事業」の利用による変化

- まちの保健室を開催するごとに保健室への参加人数が増えました。また、地域住民の方に事業所の裏の雑草を抜いて頂いたり、お花を植えて頂いたり地域の方々に愛されています。
- 利用されていた方のご家族からは、医療的処置に使うゴミ袋や新聞紙を定期的に持ってきてくださいます。
- 地域住民からの理解と応援を受けて安心して活動ができます。
- 地域の子ども食堂利用者や、まちかど喫茶のお客さんとのふれあい等を通じて、地域から暖かく見守っていただいています。
- 季節に合わせて赤鬼やサンタクロースに扮したスタッフが、地域の高齢者施設を訪問したりして交流をしています。

活動団地の場所

【団地名】 住吉住宅 11号館 105号室

【所在地】 住吉区帝塚山東5丁目7番

